

九州の身近なデータを
ワンポイント解説する
コーナーです。

DATA in 九州

今月の注目データ

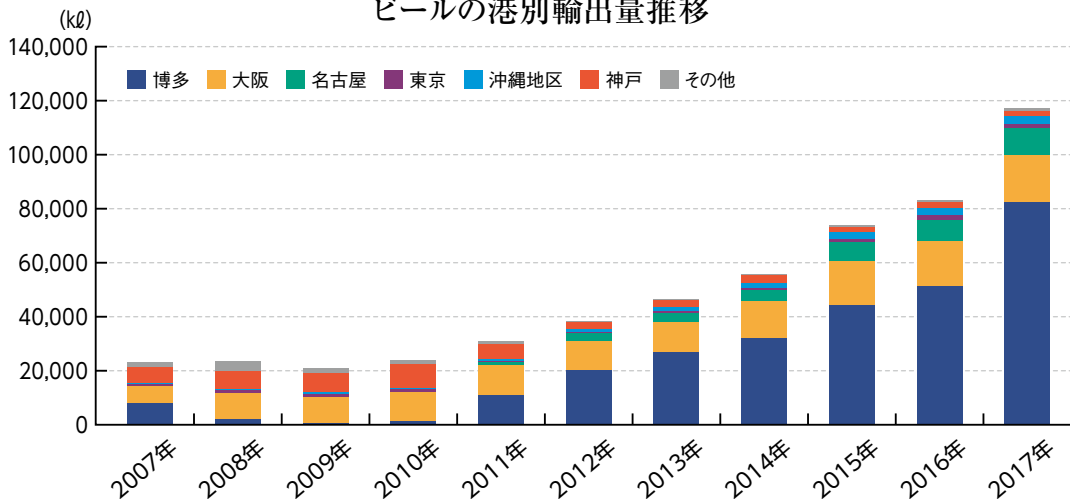
ビールの輸出量

昨年の国産ビールの輸出実績は、数量117,272kℓ(対前年比41.4%増)、金額128億73百万円(同35.7%増)と数量・金額ともに8年連続の増加となり、過去最高を記録しました。そこで全国の港別ビール輸出数量の推移を見てみると、博多港からの輸出が2011年から急速に伸び始め、2012年以降はシェア第1位(2012年、52.8%)を維持し、数量・金額ともに6年連続第1位(2017年、70.1%)となっています。

全国の国(地域)別の輸出シェアでは、2007年は台湾が32.2%、韓国が15.6%だったのに対し、昨年は韓国向けが62.5%と大きく伸び、最大の輸出相手国となっています。博多港の輸出シェアが高い理由として、ビール製造工場から博多港までの輸送距離が短いこと、また最大の輸出相手国である韓国にも近く、ビールの鮮度を保つことに有利なことが挙げられます。

韓国産のビールは日本のビールと比較してアルコール度数や麦芽の含有量が低いものが多く、爽快で飲みやすいのが特徴ですが、近年では日本食に触れる機会が多くなったことから、日本のビールの味に好感を持たれる方が多くなっているようです。また、缶ビール1本の価格は日本産ビールの方が高く設定されていますが、コンビニエンスストア等でまとめ買いをすると韓国産ビールとほぼ同じ値段で日本のビールを楽しめることも、日本産ビール人気の要因の一つになっているようです。

ビールの港別輸出量推移



出所：門司税関「貿易統計」を基にFFGビジネスコンサルティング作成